メディアと水俣病

水俣高校２年生　３名

『環境首都水俣』に学ぶ水高生から世界への「いのち」の発信

～疑問点～

県外では水俣病について、どのような報道をしていたか？

～仮説～

現在と違って水俣病は重要な問題として扱われず、あまり報道されなかったのではないか。

～水俣病年表～

１９５３年	ネコの死亡が続いて困ったので、殺鼠剤を支給したという水俣病関連の**最初の記事**。熊本版
１９５６年	水俣の病院から保健所に奇病患者多発の報告。この公式確認の日前後、報道なし。 以降、西日本、水俣タイムズ、熊日各紙が相次いで「水俣に奇病」など報道
	西部本社版に「水俣地方（熊本）に奇病／病原体わからず高い死亡率／熊大など究明に懸命」。水俣奇病対策委員会の調査の結果、周辺地域で**３０人**の患者発見し、うち**１１人が死亡**。現地記者が全国ニュースだと判断して記事を送稿したが、東京には不掲載。西部版も扱いは小さく、**統合版で消える**。
１９５９年	熊本大研究班が有機水銀と突き止めたという特ダネが東京に載らず。 九州では大きな扱い。このときすでに**死者は２０人超えていた**ことも、工場廃水が原因とわかった事実も、東京ではボツ。
	ネコ 400 号の実験。ネコが発症。チッソ、箝口令を敷いてひた隠す。明らかになるのは、1968 年の朝日新聞記事。宇井純氏らの報告で。
	水俣病（熊本県）で漁民騒ぐ“**警官 72 人が負傷**” 日窒工場に押しかけ　東京社会面トップで写真入りの大きな扱い。漁民がチッソの水俣工場に押しかけ、事務所などを壊して警官隊と衝突したとき、**初めて大きな扱い**。

～当時の新聞の小さい記事

当時、高度経済成長期により地方都市でおこる環境汚染のようなことに関して、目をつむることが基本方針であった可能性がある。また新聞の組版により生じる空きスペースにどうでもよい記事（詰め物）として、工場廃液の記事が掲載された過去もある。

～いのちの発信～

昔の情報が間違っていることを伝えて、正確な情報を持つことが大事だと伝える。

教科書にはあまり深く書かれていないので二度と同じことを起こさない為にくわしく教えていくことが大切。

～まとめ～

水俣病発生当時は、重要視されておらず新聞の空きスペースに**どうでもよい記事**として扱われた。

また、東京の新聞には水俣病の記事は載らず、被害者や家族がチッソに押し掛けたことについて新聞トップで載せた。

～参考文献～

http://asait.world.coocan.jp/kuiper_belt/section6/kuiper_section6.htm　「新聞と嘘」
http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/wp-content/uploads/2014/09/7221bd643bcee087c8a3a89168a47cfc.pdf　「水俣病報道の責任」